

『事例でおさえる民法 改正債権法』

(YT・法曹・40代)

改正民法(新法)については、改正内容についての一般的な解説書を読んだことはあるものの、これを具体的な事例に即して解説する書籍に触れたことはなかった。本書のタイトルを見たとき、本書により新法をどのように用いて事案を解決するか、すなわち新法の実践的な使い方が分かり、新法についての理解がより深まるのではないかと思い、これに関心を持った。実際に読んでみると、本書は、新法の主要な改正点ごとに、事例の設定、旧法及び新法を対比した解説、事例の検討というパートに分かれており、とりわけ事例の設定においては筆者が読者に対して事例の検討を問う構成となっている。まずは当該構成に従い、事例について自ら新法を紐解き結論を出した上で、解説へと読み進めることをお勧めする。私はこの過程を経ることにより、新法そのものについての理解が深まったのみならず、新法を使いこなす能力も向上したように感じる。本書はもともと筆者の大学での講義資料がベースとのことだが、学生のみならず、新法の習得の必要性を日々感じてはいるものの、一般的な解説書を読むのみではこれを習得する困難さを感じていた私のような実務家にも強くお勧めできる書籍である。

(補足)

私は本書のはしがきに言う「旧法を学んで実務家になった」者ですので本書のように事例解説のパートでも旧法を適用した場合と新法を適用した場合を対比した解説がされている点の整理に役立ちました。